

**第9回 標準委員会 発電炉専門部会**  
**統計的安全評価手法標準分科会 P9SC9**  
**議事録**

日時 2007年4月17日 (火) 13:30 ~ 17:00

場所 日立製作所本社 丸の内センタービル 第1会議室

出席者 三島主査(京大)、山口副主査(阪大)、江畑委員(JNES)、影山委員(GNF-J)、  
越塚委員(東大)、坂場委員代理(MHI)、鈴木委員(JAEA)、田中委員(茨大)、  
谷本委員(保安院)、堀田委員(TEPSYS)、松浦委員(原燃工)、松本委員(日立)、  
溝上委員代理(東電)、本谷委員(東芝)、森田委員(原電)、米原委員代理(原技協)、  
綿田委員(関電)、渡辺委員(JAEA)

常時参加者 小野(東芝)、金子(GNF-J)、香田(日立)、鈴木(原燃工)、藤井(関電)

発言希望者 工藤(GNF-J)

傍聴者 原子力安全委員会事務局、電力・メーカ関係者  
(敬称略)

#### 配布資料

第9回 統計的安全評価手法標準分科会(P9SC9) 議事次第

P9SC9-1 : 第8回 標準委員会 発電炉専門部会 統計的安全評価手法標準分科会  
P9SC8 議事録(案)

P9SC9-2 : 統計的安全評価手法標準分科会の進め方及び活動状況について

P9SC9-3 : 課題整理表

P9SC9-4-1 : 「2007年春の年会」標準委員会セッションII(発電炉専門部会)「統計的安全評価手法の発展と学会での検  
討状況」及び一般セッションC02議事メモ(案)

9-4-2 : 各セッションにおける質疑応答及び対応方針

9-4-3 : 標準委員会セッション配布資料

- ・最適評価と統計的安全評価手法の発展
- ・統計的安全評価手法標準の目標設定と構成
- ・統計的安全評価手法に使用される最適評価コード

P9SC9-5 : 日本原子力学会標準(案) 統計的安全評価手法(本文、附属書1)

P9SC9-6 : 附属書2 最適評価コードの要件と管理(案)

P9SC9-7-1 : 附属書3 PWRへの適用例(案)

9-7-2 : 附属書3 BWRへの適用例(案)

P9SC9-8 : 解説(案)

9-8-1 : 本標準の安全評価への適用の考え方

9-8-2 : 統計的安全評価手法手順

9-8-3 : 重要度ランクテーブル(PIRT)の作成

9-8-4 : 最適評価コードの要件と管理

9-8-5 : 統計的安全評価手法における保守性について

#### 議事及び主な質疑応答

##### (1) 議事録の確認

米原委員代理より、P9SC9-1「第8回統計的安全評価手法標準分科会P9SC8 議事録(案)」により、前回分科会の  
議事録の確認がなされた。

誤字・脱字を修正の上、承認された。

##### (2) 分科会の進め方及び活動状況の確認

米原委員代理より、P9SC9-2「統計的安全評価手法標準分科会の進め方及び活動状況について」に基づき、これ  
までの実績、今後のスケジュール及び前回からの変更点について説明があり、審議の結果、了承された。発電炉専  
門部会への中間報告については、部会の開催時期との関係もあり、標準委員会事務局と調整を図ることにした。

また、本日審議できなかった資料もあるため、これら資料も含め確認いただき、追加コメントがあれば別途連絡  
をいただくことにした。

##### (3) 課題整理表の確認

坂場常時参加者より、P9SC9-3「課題整理表」により、過去の分科会で出された課題とその対応について確認が  
なされた。

(4) 日本原子力学会 春の年会における発表及び統計的安全評価手法における保守性

米原委員代理より、P9SC9-4-1「『2007年春の年会』標準委員会セッションII(発電炉専門部会)『統計的安全評価手法の発展と学会での検討状況』及び一般セッションC02議事メモ(案)」及び9-4-2「各セッションにおける質疑応答及び対応方針(案)」に基づき、年会発表時における保守性関連の質問に対する対応方針について説明がなされた。

また、これを受け、小野常時参加者より9-8-5「統計的安全評価手法における保守性について」及び坂場常時参加者より9-8-2「統計的安全評価手法手順」に基づき反映箇所・内容の説明がなされた。

保守性を担保するための方法に関し、資料9-8-2のP10と資料9-8-5のP2～3に同様の記述があるため、重複がないように解説の構成等を工夫することにした。

(5) 重要度ランクテーブル (PIRT)

小野常時参加者より、9-8-3「重要度ランクテーブル(PIRT)の作成」に基づき、前回からの変更点(一部、規定への格上げ等)について説明があり、規定への提案がなされた。

- a. 「既存PIRTが存在する場合は、それを有効に活用することができる」との表現だけでは無条件に使えるようにとれるので、活用することが認められるための条件に該当するものを追記することにした。
- b. PIRTについては附属書1、2の両方に関係してくるため、その規定をどこにどのように織り込むか、考え方を整理し具体的な規定化の方法を検討することにした。
- c. PIRTの最終ステップとして、「文書化」について規定することにした。規定化の方法についてはb.との関係も踏まえて検討することにした。

(6) 附属書2

工藤発言希望者より、9-8-4「最適評価コードの要件と管理」に基づき、附属書2解説案の説明がなされた。

他の附属書との関係において、附属書の並びや記載の仕方がストーリーとして適切なものになっているか、重複した部分がないか、論理的に矛盾していないか、について確認していくことにした。

(7) 本文・附属書1

坂場常時参加者より、P9SC9-5「日本原子力学会標準(案) 統計的安全評価手法(本文、附属書1)」に基づき、前回からの変更点について説明があった。

- a. 附属書1ステップ10「スケール効果の評価」については、実際の適用に向け「スケーリングに際して留意すべき事項」を解説に示すことについて検討することにした。
- b. データ設定の扱い(決定論的扱いの場合、限界条件かノミナル条件か)に「重要現象に関わるパラメータか否か」の条件を織り込むか否かについて、考え方を整理することにした。
- c. P7「d) 判断基準との比較」の文章を適切に修正することにした。

(8) その他

今回は6月5日(火)とし、次々回は8月10日(金)に仮設定することにした。

以上